

ダイアログ・イン・サイレンス showcase in 三重

開催報告



実施概要

開催日時：2024年7月31日（水）

第1部：9時30分から10時20分 第2部：11時00分から11時50分

第3部：13時00分から13時50分 第4部：14時30分から15時20分

会場：三重県総合文化センター ギャラリー1（津市一身田上津部田1234）

参加人数：91名参加（大人30名、子ども61名）

開催内容

音のない世界で、言葉の壁を超えた対話を楽しむエンターテインメント
「ダイアログ・イン・サイレンス」を三重県主催で初めて実施しました。

音声に頼らず対話をする達人、聴覚障害者のアテンドが参加者の方々を案内し、
参加者は、音を遮断するヘッドセットを装着して静寂の中で、集中力、観察力、
表現力を高め、開放感のある自由を体験するイベントとなりました！

また、ボディランゲージなど、音や声を出さず、互いにコミュニケーションをとる
方法を発見していくことで親世代や子どもに対し、ダイバーシティの視点から
発想の転換や行動の見直しにつながることを願い、本イベントを企画・実施しました。

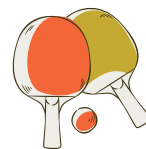


当日の流れ

初めはみんなで輪になって、オープニング。アイコンタクト、ボディランゲージなどの重要性や一人ひとりの個性があることに気づくアイスブレイク。



その後、8~10名のグループに別れました。手の形や表情などを使い、スポーツ・音楽を体で表現しました。ここでは、様々な表現の仕方や相手の意図を認識する体験をみなさんに楽しんでいただきました。



後半では、みんなでひとつのものを作り上げるプログラムとして、マーチング・バンドのイメージを採用しました。各グループにて、アテンドから見えない楽器を渡され、みんなで輪を作りオーケストラを行いました。一人ひとりの動きや表情により、奏でられる音や感情の違いに気づいていただく体験をしていただきました。



ご参加いただいた方からのお声

- 聞こえないはずの音楽が、いろんな音として盛大に聞こえたように感じた。
- 音のない世界でも、表情の豊かさに想いが伝わってきた。
- 手の動きや表情で様々なことを伝えることができた。
子どもにもダイバーシティの体験・理解を促すことができてよかった。
- これからは色々な視点を持ち、物事を考えていきたいと感じた。
- 音が聞こえない世界では、他者との関係性をより大事にし、保っていると感じた。